



次世代の若者たちへ

▲高須町の金浜でアメリカ軍上陸の話を書く子どもたち



もえこ
川崎 萌子さん
(鹿屋東中学校2年)

戦争について学び 発信していくことが大事

昨年度行われた「平和の花束2014」で最優秀賞を頂いたことで、よりいっそう戦争について知りたいと思い、今回親子戦跡バスツアーに参加しました。

今回のツアーで印象に残っていることは高須町の金浜で、山下巖さんがアメリカ軍上陸の話を書かれたことです。話を聞く前は、ここにアメリカ軍が上陸したとはなかなか実感がわかなかったのですが、実際に体験された方の話はとても説得力がありました。

また一緒に同行された平和学習ガイドの方の話もわかりやすくて良かったです。

今回ツアーに参加し、戦争体験者の方の話などを聞いて、絶対に戦争をしてはいけないと改めて思いました。

今の平和な社会を未来に残していくため、私たち若い世代が戦争について自分で考え、周りにも発信していくことが大事だと思います。

7月28日、鹿屋市内の戦跡めぐり、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える「親子戦跡めぐりバスツアー」が開催されました。特攻隊員の宿舎などがあつた野里町の「桜花の碑」の前では、今年4月に認定された平和学習ガイドが、当時の特攻隊員の生活の様子や、桜花の碑ができた経緯などを説明。浜田町の「海軍坂元砲台跡」では、戦時中に浜田町に住んでいた柿内徳藏さん(84歳)が、アメリカ軍の進駐に備え砲台が設置され、高須の方面に砲身が向いていたことや、終戦後アメリカ軍が砲台を爆破したのを目の前で見たことなど、貴重な体験

談を語りました。今回行われたバスツアーの他にも、戦後70年の今年には、リナシティかのやで戦時中の写真や体験談などを展示する企画展(8月18日まで)や児童・生徒の平和へのメッセージを発信する「平和の花束2015」を8月18日に開催します。戦争を風化させず語り継いでいく役目は、戦争を体験していない世代に引き継がれます。「戦後70年だから」、「テレビで特集をしていたから」などきっかけはどんなことでも構いません。身近なところで起こった戦争の歴史について学び、平和について一度考えてみてはいかがでしょうか。

太平洋戦争が終結してから70年となる今年、終戦記念日を前に戦争体験者から次世代の若者たちへ、平和の尊さについて伝えていく取り組みが行われています。

元学徒通信隊 勝目アサエさん(86歳) 新生町



新生町の勝目アサエさんは高山高等女学校の学生時代に学徒通信隊として動員されました。

昭和20年、特攻機の出撃命令を出す重要な役目を担う第五航空艦隊が鹿屋基地に設置されました。

学徒通信隊は、各地の基地と特攻機の出撃情報などを電話でやりとりをしました。

「最初は鹿児島市内の電話局から人が来て電話の受け方やかけ方の訓練があり、その時はまだ基地内にいました。」

しかし、昭和20年3月18日に鹿屋基地が空襲を受け、その後は新生町の地下壕に移り通信業務を行いました。

この業務は高山高等女学校の他にも鹿屋・末吉・志布志の高等女学校の生徒もいて交代で24時間勤務を行っていました。当時は毎日の業務をこなすことに必死で、周りのことを気にかける余裕はありませんでした。

唯一の喜びといえば1か月に1回ほど家に帰る時でした。当時は貴重だった石鹼や羊羹などをお土産として持たしてもらったのを覚えています。

今の人は自由に生きていて幸せですね。私たちは物がなく青春を謳歌することができませんでした。戦争をしてはいけない。平和な世の中が一番だと思います。」

毎日生きることにも必死でした

伝えたい戦争の記憶

串 良町の北田忍さんは志願して鹿屋基地内の空廠(航空機の部品の製造や整備を行うところ)で昭和19年から働き始めます。まだ14歳のときでした。

「最初は見習い工員として養成所に入り、航空機の整備のための勉強や実技の訓練を受けました。」

その後、鹿屋基地内の空廠で零戦や一式陸攻といった航空機の整備を行いました。当時鹿屋基地にあつた航空機は、ほとんど整備していました。

当時の航空機の部品は同じ部品でも穴の大きさなどが違ったりして、他の機体から部品を流用するのにも苦労しました。後に知った話では、アメリカ軍は部品の品質管理が行き届いており、部品の流用もスムーズに行われていたそうです。

隊員の命に関わるため、整備はミスが許されず、誰かがミスをすると連帯責任で上官からお尻を叩かれました。それが一番辛かったです。何回も棒で叩かれ、気絶する仲間もいました。

昭和20年3月21日には特別攻撃隊の神雷部隊の出撃を帽子を振って見送りました。多数の航空機が出撃しましたが、本来帰還するはずの航空機もほとんど戻ってきませんでした。

歴史は繰り返します。今の若い人たちには、もっと歴史についてしっかり勉強してほしいです。」

元第22空廠見習い工員 北田忍さん(85歳) 串良町岡崎

